

八王子の歴史と伝統を活かした MICE 誘致

ー特にエクスカーションとお土産についてー

帝京大学 小笠原永隆ゼミナール

担当教員 小笠原永隆

代表者名 小山奈津

①要約

現状を分析した結果、積極化戦略として、絹産業の伝統とともに既存インフラ・大学・交通を活用し、都心部との差別化、行政との連携を図ることが導きだされた。また、「MICE 誘致のメリット」が弱いことから、伝統や歴史文化を活かしたエクスカーションツアーの整備やお土産品開発がその克服戦略として指摘できた。以上の戦略に八王子の“多様な主体”が取り組み、都心部への集中を解き、多摩地区内においても一歩リードできると思われる。

新たなエクスカーションとお土産の開発については、“多様な主体”を総動員し、特に絹織物産業“繁栄”の象徴でもある「芸者衆」との連携は欠かせない。八王子の歴史文化を活かしたエクスカーションは、基本からマニアックなものまで、多彩なメニューを用意する。学会等の性格や要望に応じて、オプションメニューをたくさん用意することで、他地域との差別化を図ることができる。お土産品開発は、あまり斬新なものにこだわらず「現在あるもの」を活用した「無理のないもの」が“持続的な取り組み”となると考えた。最大の強みである“多様な主体”を総動員したエクスカーション・お土産品の継続的な開発こそが、MICE 誘致につながるといえる。

②目的

八王子は、JR 線及び京王線によって都心と直結し、コンベンション施設としてもオリンパスホール、学園都市センターなど、大小さまざまなニーズに対応可能であることに加え、宿泊施設も多く、MICE に係る高い可能性を有している。

こうした可能性を活かし、地域間競争に打ち勝ち、誘致をより強化するためには、「エクスカーション」の多様さや「アフター・コンベンション」への魅力を高めること、つまり会議やレセプション終了後の楽しみを増やすとともに、それに参加しやすい雰囲気づくりが必要不可欠である。

そこで本調査・研究では、宿泊施設に直結し、

伝統ある街である八王子駅周辺を起点とした「観光都市(地)・八王子」を中心として、様々な活用資源を見出だしたうえで、MICE のお客様にとって魅力あるエクスカーションやアフターを楽しむことができる仕組みを調査し、研究することを目的とした。

③方法

まず、八王子における MICE に関する現状について SWOT 分析を行い、戦略の見通しを立てた。

そして、これに基づき、街中の実地踏査（八王子駅周辺、特にユーロード周辺の夜間・昼間の状況把握、駅周辺のお土産品調査）、八王子周辺における歴史・文化資源及び絹産業にかかわる遺産等のピックアップ及び実地調査を行った。

さらに、市内関係者への聞き取り調査を行ったうえで、エクスカーションツアーを立案し、学会関係者を対象としたモニターツアーを実施し、その感想を聴取するとともに、改善点等を把握することとした。

④結果

(1) 現状分析

現状について SWOT 分析を行った結果を図 1 に示す。

強み 伝統ある“絹織物”産業都市 たくさんある「会議施設」 「学園都市」⇒大学等との連携 都心に直結する交通	弱み 強すぎる“高尾山”のイメージ 象徴する「お土産品」がない MICE開催のメリットが不明確
機会 都心部の飽和現象 ⇒高い料金のうえ、確保も困難 (MICE会場も 宿泊も) 多摩地域の観光重視政策 ⇒「PRIME 観光都市・東京」	脅威 “ライバル”の出現 ⇒「立川」「多摩センター」の成長 進む都心部への集中 ⇒特に外国人観光客

図 1 八王子 MICE に関する SWOT 分析

機会を逃さず、強みを活かした積極化戦略として、豊富な会議施設、伝統の絹産業を活かしたエ

クスカーションを前面に出し、都心部での開催が困難な学会などに対し、積極的なプロモーションを行うことが挙げられる。これは、多摩地域を重視する東京都の政策に沿うものであり、様々な支援策を得られる可能性が高く、より挑戦的な策を用意しておくことが大切である。

また、弱みを改善していく克服戦略として、高尾山の強いイメージを使いつつ「利便性の高い八王子」をアピールすることや、八王子の歴史・文化・伝統をイメージできる「お土産品」や「エクスカーション」を開発していくことで、多摩地域内における差別性の強化のみならず、都心部へ集中する訪日外国人に対しても強い誘客要因になると思われる。

(2)街中の実地踏査

駅周辺の実地踏査（夜間）を、JR 八王子駅ロータリーから“ユーロード”を中心に実施した（5月16日19時~20時頃）。駅では相当数の下車する乗客を確認したが、大変が帰宅客であり、駅ビルの食料品売り場等で買い物をするくらいで街中に行く人数はかなり減っていた。それでもユーロード入り口付近では多少の賑わいを確認することができたが（図2），“黒塚”付近まで進むとその数はまばらとなり、営業している店も酒を中心とする飲食店のみであり、駅前と比べるとかなり暗い印象を持った（図3）。



図2 夜間踏査①(八王子駅北口よりユーロード入口方向をのぞむ)

なお、夜間踏査は、他の調査の帰りなど、季節や曜日を変えて、このあと数回実施したが、状況はほぼ同じであった。いわゆる“ショッピング”を楽しむ店は駅ビル及び駅前のテナントビルに限られ、街中は“飲み”を目的とする人が中心であり、当然ながら店の中に入ってしまい、その姿

を見ることが、あまりできないと判断された。



図3 夜間踏査②(ユーロードの黒塚入口付近)

駅周辺の実地踏査（昼間）についても5月19日から数回、機会が得られるごとに実施した。“ユーロード”においては、平日昼休みや休日のイベント（バンド演奏や陶器市など）が実施されている時は賑わいを見せているものの、それ以外の時は閑散としている印象を持たざるを得なかった。もちろん、JR 駅ビルをはじめ、JR 線と京王線との連絡通路には多くの人通りが確認できるものの、他の街中はほぼ同じような状況であった。



図4 昼間踏査(ユーロード付近)

お土産品では、“都まんじゅう”、“MANAKA のどらやき”、“松姫もなか”など地元の人に愛され、美味しく魅力的な食品がいくつか見られたが、いずれも日持ちしないものが多く、MICEのお土産品としては難しいものが多かった。しかし、織物会館のショップ（BENECK）では、八王子織物を代表するネクタイをはじめ、ネクタイ生地を活用した創作商品（p-tie、カードケース、財布など）も見られ、「ご当地ならではの」が感じられる

商品も多くみられた（図5）。



図5 八王子織物を使った創作商品

(3) エクスカーションに係る資源調査

エクスカーションに係る資源調査では、絹織物産業関連として、織物会館をはじめ、現在稼働中の絹織物工場をピックアップした。織物会館では、絹織物体験もすることができ、エクスカーションだけでなく、さまざまな場面で利用が期待できる。しかし、機織り機が10台あるものの、本物の織物技術を指導できる伝統工芸士が8名しかいない。うえ、高齢化がすすみ、頻繁には開催できないという実情がある。これは、八王子の絹織物産業が抱える、産業全体の衰退に伴う後継者不足という根本的な問題があり、容易には解決できない。

これは工場見学にも言える問題であり、見学に対応できるところが極端に少ない。常態的な受け入れを行っているのは「澤井織物工場」のみである。他はたとえ工場が稼働していても、合理化に伴う人手不足で、見学者への対応がしたくてもできない、とのことであった。なお、同工場では、2名ずつなら30分程度のコースターづくり体験



図6 澤井織物工場の様子

が可能とのことであった。見学者の受け入れにも積極的で、期待できる施設であるが、工場自体が小規模であり、工場内も機械が密に配置されてお

り、見学者が動けるスペースが非常に狭いのが難点である。10人程度までなら、十分に見学できると思われるが、それ以上になると安全確保点からも問題多いと思われる（図6）。

歴史文化資源については、特に中世以降、交通の要衝及び軍事的拠点として発展し、生糸や織物の集積及び中継地点となっていたことから、活用可能な資源が実に豊富であり、「八王子郷土資料館」にその情報及び資料が蓄積されている。

絹関連では「絹の道」、その拠点施設となる「絹の道資料館」、そして養蚕農家「小泉家旧宅」（現在修復中）が鎌水地区でまとめてみることができ、八王子絹関連産業の歴史を見るうえで外せない拠点である。

中世にまでさかのぼると、北条氏関係の城郭である「八王子城跡」及び「滝山城跡」がある。どちらも豊臣氏の天下統一の過程を示す貴重な考古学的遺跡であり、歴史的な重要性も極めて高い。しかし、中世城郭という性格上、いわゆる山城で険しい山中にあり、その見学は容易ではない。また、よく整備されているものの、文化財保護の観点からも安易に建物を復元することができない（特に“天守”は中世城郭にはなく、一般的なイメージとかけ離れている恐れが強い）。つまり、見学には労苦を伴うだけでなく、期待外れな印象を与えてしまう可能性も高く、そのエクスカーションでの活用において、相手方を見極める慎重さが求められる。

近代以降では、八王子煉瓦・日野煉瓦に関する産業遺産が注目される。これは、明治維新以降の近代化に伴うインフラ整備（コンクリートが一般化する以前の鉄道施設、主要道路及建物など）における重要な資材であった。その利用にあたっては、運搬コストを削減するため、なるべく使用する場所の近くに生産拠点を設けたことが特徴であり、現在のJR中央線及び甲州街道などの整備に伴い、生産拠点を移している点が興味深い。現在でも鉄道橋脚の一部に当時の煉瓦が見られるほか、生産拠点から運び出すための鉄道施設の痕跡を見ることができる（図7）。これらは、地味ながらも相手方によっては、非常に興味をもって見ることのできる資源であり、エクスカーションでの活用が期待できる。



図7 八王子煉瓦関連施設

(4) 関係者への聞き取り調査

聞き取り調査は、実際に MICE 誘致を担っている「八王子観光コンベンション協会」、市内商工業者をまとめ土産品開発の中心となる「八王子商工会議所」、絹織物産業の拠点である「八王子絹織物工業組合」、八王子織物の伝統工芸士である「澤井織物工業・澤井伸氏」、絹織物産業繁栄の象徴であり街中の象徴である「八王子芸者・めぐみ氏」、都としての MICE 政策を推進する「東京都観光財団」及び「東京都観光審議会会長・大下茂氏」に対して実施した。なお、それぞれの立場から、本調査を進めるうえで貴重なお話をお伺いすることができた。その内容については、本報告各所に反映しているので詳細は省略する。

(5) 学会関係者によるモニターツアーの実施

12月21日に学会（産業考古学会・日本考古学協会）関係者3名を招き、絹産業関連施設及び遺産を中心とした試行ツアーを実施した。

10時に京王八王子駅を出発し、織物会館（SHOP ベネック）→澤井織物工場→昼食（坂福）→絹の道・資料館・小泉家屋敷→日野煉瓦関連遺構（日野駅周辺6か所）というルートでめぐり、高幡不動駅を16時解散で終了した。参加者はいずれも伝統産業及び産業遺産に造詣が深い研究者であったため、非常に好評であった。特に澤井織物工場では、最先端産業とのコラボレーション

企画のお話を聞くことができ、特に参加者の興味を引いていた。

⑤考察

八王子最大の強みは“絹織物産業を産み育んだ歴史と伝統文化”であり、その結果としての“多様な主体”である。多様な主体の中でも、八王子は日本有数の大学集中地であり、MICE 誘致推進の際にも大きな力となることが期待される。

また、前述したように八王子のすべてを象徴する「芸者衆」との協働は外せない。めぐみ氏によると、増加する訪日外国人への対応力の強化、すなわち語学習得、“お座敷”の他にイベント等への出張（体験対応も含む）も行っており、今後のさらなる活躍が期待できる。また、このように活動の幅が広がっても、絶対に「芸能」をおろそかしてはならない、とめぐみ氏は主張され、ユニークベニューを進めるうえでも示唆的であった。

エクスカージョンは、“絹織物”を基本として、産業遺産（レンガ関係）や史跡（中世城郭）、さらに現在の工場群の活用が考えられるが、参加側の嗜好を事前に聴取したうえで、オプション的な利用が考えられよう。なお、発展的な取り組みとして、特に中世城郭では、VR 技術による案内をすることで見学者の興味関心に加え、理解度の上昇が見込まれ、一般向けにも活用できると思われる。

なお、MICE に際しては、ナイトライフを中心とするアフターコンベンションも重要であり、街中の賑わい創出が今後の大きな課題となる。

もう一つの大きな課題であるお土産品開発は、あまり斬新なものにこだわらず、既存のものを組み合わせることで、無理なく持続的な取り組みになり、例えば絹織物を使った扇子など芸者衆とのコラボでアピール力を高めることが期待できる。

⑥結論

八王子の MICE は、これからの取り組みであり、強みである“歴史と伝統文化”“多様な主体”を総動員したエクスカージョン・お土産品の継続的な開発こそが、その誘致につながると考えられる。

特に、資源を地道に発掘し、オプションメニューを整備していく作業は、継続していかねばならない。その作業こそが、八王子の“奥深さ”をさらに掘り下げ、魅力を広げ、アピール力を高め、街中の賑わい創出にもつながると確信する。

⑦参考文献

熊倉一見(1988)、我が国の歩道煉瓦製増資について

ての一考察, 第8回日本土木史研究発表会論文集, p125-133, 日本土木学会.

八王子市史編さん委員会(2015), 新八王子市史本編 近現代(上), 八王子市.

八王子市史編さん委員会(2016), 新八王子市史本編 近現代(下), 八王子市.

※下記のホームページも参考とした。

ダウンファクトリー一級建築士事務所「「煉瓦積み蔵」Coffee Bricks 八王子」(2010年11月1日更新)

<http://www.townfactory.jp/news/768.html>

歩鉄の達人「廃線探索 大阪窯業八王子工場専用線」(2014年11月30日更新)

<http://www.hotetu.net/haisen/kanto2/141129osakayougyouhachioujisenyouusen.html>

802 ちず楽会「JR 八王子駅から旧野猿街道と明治時代の煉瓦工場の痕跡を探して」(2015年3月1日更新)

<http://www.emap802.net/sansaku/20150301.html>

努君的徒然草 2014「長沼の煉瓦工場を探せ(1)(2)」(2015年12月10日更新)

<http://shibasen.hatenablog.com/entry/2015/12/10/001732>

<http://shibasen.hatenablog.com/entry/2015/12/10/190000>

東京都福祉保健局「トーキョーウォーキングマップ ひの煉瓦コース～ひの煉瓦の歴史を訪ねる～」(2016年更新)

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/walkmap/map/detail/158.html>